

2001年度 ムーブメント教育・療法夏期セミナー

保育・教育・療育に生かす実践講座

< 福井会場 >

期日：2001年8月4日(土)～5日(日)

会場：福井県自治会館

主催：日本ムーブメント教育・療法協会

主管：日本ムーブメント教育・療法協会北陸支部

福井会場

保育・教育・療育に生かす実践講座

8月4日（土）		福井県自治会館
12:00	<受付>	
12:45	<開会式>	
13:00 14:00	<実技> 動きを通して子どもたちに喜びを ～ 福井市あさひ保育園の園児とともに ～ 小林 芳文	
14:10 15:30	<講演・実技> 保育・教育・療育に生かすムーブメント教育の理論と実際① ～ 感覚運動・知覚運動を中心に ～ 小林 芳文	
15:40 17:00	<講演> 新保育所保育指針とムーブメント教育 ～ 保育の現場から ～ 増田まゆみ	

8 月 5 日（日）		福 井 県 自 治 会 館	
8：30	< 受 付 >		
9：00 9：40	<<実 践 報 告>> 地域での療育に生かすムーブメント教育 ～ 湘南ムーブメント教室での実践 ～		増田まゆみ
9：40 10：20	<<実 践 報 告>> 養護学校におけるムーブメント教育 ～ 富山ムーブメント研究会での実践 ～		阿部美穂子
10：30 12：00	<<理 論・実 技>> 保育・教育・療育に生かすムーブメント教育の理論と実際② ～ 精 神 運 動 を 中 心 に ～		小林 芳文
昼 食			
13：00 14：20	<<講 演・実 技>> ADHDへの支援に生かすムーブメント教育 ～ 教 育 の 現 場 か ら ～		是枝喜代治
14：30 16：00	<<実 技>> ミュージックムーブメントの実際 ～ 動くこと、感じること、考えること ～		飯村 敦子
16：00 16：10	< 閉 会 式 >		

会 場 ●福井県自治会館

福井県福井市西開発4-202-1
 TEL (0776) 57-1111 (代)
 FAX (0776) 57-1115

動きを通して子どもたちに喜びを

ー 福井市あさひ保育園の園児とともに ー

横浜国立大学教授

JAMET顧問 小林 芳文

どの子どももムーブメントでの喜びの機会を待っています。一日のスタートを軽運動と楽しい雰囲気の中で、子ども達に元気のエールを送って下さい。

子ども達は、楽しい環境と魅力のある遊具の環境で、自然に自分の力を出し、笑い、そして手を動かし、身体を躍動させさまざまな環境と対話していくことでしょう。

1. フリームーブメント

ここでは、子どもがムーブメント環境になれるために、そして自分を出せるために自由な時間を設定します。

つまり、ムーブメント活動のためのウォーミングアップをする。

① 子ども達の笑顔を支える

② 大人は子どもがどこに反発するか観察する

2. 全員での課題ムーブメント

① 身体は遊具である

② 動きの基本を支える

3. 身近な遊具を使ったムーブメント

保育・教育・療育に生かすムーブメント教育の理論と実際①

— 感覚運動・知覚運動を中心に —

小林 芳文

人間は、知覚なしに環境からの如何なる信号も感覚出来ないし、それに反応できない。子どもが遊びや活動を楽しむことは、聴覚、視覚、筋運動知覚などに依存しているところが大きい。この中で人間が環境に接する大きな媒体は視知覚である。人間の知覚の80%は視知覚に依存するからである。

1. 感覚と結びついたムーブメント教育（感覚運動）について

(1) 感覚運動の考え方

- ・感覚とは
- ・教育の土台を作る感覚運動の力

(2) なぜ、重度障害児や乳幼児に感覚運動か

- ・発達、身体意識の形成に向けて
- ・健康の土台作り

2. 人の知覚機能の考え方

(1) 発達の流れと知覚機能

- ・知覚の種類について
- ・M.Frostig による視知覚能力の考え方

①視覚と運動の協応、②図地関係、③形の恒常制、④空間の位置関係、⑤空間関係という5つの下位検査（Frostig視知覚発達検査）

- ・視知覚とは、視覚的刺激を認識して弁別し、それらの刺激を以前の経験と連合させて解釈する能力。
- ・視知覚の活動は、我々の全ての動作の中にあられる。この能力が十分であれば、文字などの教科学習の準備があると考ええる。

3. 視知覚能力と結び付いたムーブメント教育（知覚運動）について

(1) 視覚と運動の協応

視覚を身体や運動と協応させる能力。

（例）・微細運動…紙切り→曲線・角度

配置とはりつけ→三角・四角・線の輪部

組み立て玩具→ナットとボルト・はめ込み

ビーズつなぎ→形や色の弁別や系列づくり

・粗大運動…障害物を跨ぐ、ボールを蹴るなどの連係動作

ロープを踏まずに歩く、円・ジグザグ線歩き

(2) 図形と素地

図形とは、知覚の場の中心であり、素地とは、その背景をいう。

この弁別力が貧弱な子は、注意力が散漫で混乱している。

（例）・弁別活動→部屋の中の丸いもの、赤いもの、木で出来たもの等を指で指させる。ムーブメント教育を進めていくにつれ、子どもたちに選ばせる物は、だんだん目立たない物にする。

・丸いボタンの入っている箱の中の四角なボタンをひろわせる。

・分類→大きさ・形・色の特質を利用する。

仲間あつめ（知覚の恒常性につながる）

(3) 形の恒常性

形（知覚）の恒常性とは、眼球の網膜上の像の変化にもかかわらず、特定の形や位置の大きさといった事物の特性は変化しないことを知覚する能力。

（例）・平面や立体の認知と名称

シルエットに写した物を認知する。

だ円形一卵・スリッパ、円一りんご

・大きさによる分類

事物（リンゴなど）を小さな物から大きな物へ配列させる。

（モンテッソリープログラム参照）

・大きさを示す言葉

大きいー小さい、厚いー薄い、広いー狭い、高いー低い

・同じ形の発見

短形→テーブル、車

円形→時計、電話のダイヤル、フープ

(4) 空間における位置

空間における位置の知覚とは、人と事物の空間的な図形の知覚と定義してもよい。この知覚が不完全な子は、身体意識が未熟な子である。動きに躊躇があり、中、外、上、下、前、後ろ、左右のような、空間位置を示す言葉の意味の理解が困難である。

（例）・身体と事物の関係の活動

椅子の上のにのぼる。下をくぐる。前に立つ。円の中に入る。

・方向性→左右の方向性を確立する。

右手を高くあげる。左手の上に右手をのせる。右足で線を踏む。

前へ進みなさい。右へまがりなさい。

・身体の様倣動作

(5) 空間関係

空間関係の知覚とは、子どもが2個以上の事物と自分との位置関係や、事物相互間の位置関係などを知覚する能力である。

(例) ・身体を使う

床に平行線を引いて道を作る。

その道を横切る。横側を歩く。

中央を歩く。縁を歩く。

・ロープとビーンバッグを使う

木に成っている林檎

《講 演》

8 / 4 15 : 40 ~ 17 : 00

新保育所保育指針とムーブメント教育

－ 保 育 の 現 場 か ら －

小田原女子短期大学教授
JAMET理事 増田まゆみ

1. 人生80年時代の子育て

① 子どもは「授かりもの」

子どもは「作るもの・生むもの」

② 子どもを育てることと私らしく生きること

③ 子どもを健やかに生み、健やかに育てる社会支援体制

少子化と超高齢化社会での子育て

④ 子育ての実態

⑤ 生きる力の基礎を培う

2. 保育所保育の基本

保育所における保育は、乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしいものでなければならない。

家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力の下に家庭養育の補完を行い、子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができるように環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図るところにある。

保育所・家庭・保育者・保護者とのパートナーシップ

子育ての意義・喜びを共有する

保 育 の 目 標



保 育 の 方 法

- エ 子どもが自発的、意欲的に関われるような環境の構成と、そこにおける子どもの主体的な活動を大切にし、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように遊びを通して総合的に保育を行う。
- オ 一人一人の子どもの活動を大切にしながら、子ども相互の関係づくりや集団活動を効果あるものにするよう援助する。

環境による保育・教育



遊びを通しての総合的な保育

遊びを原点とした発達教育～ムーブメント教育
子どもの幸福感をめざす教育

3. 保育実践では

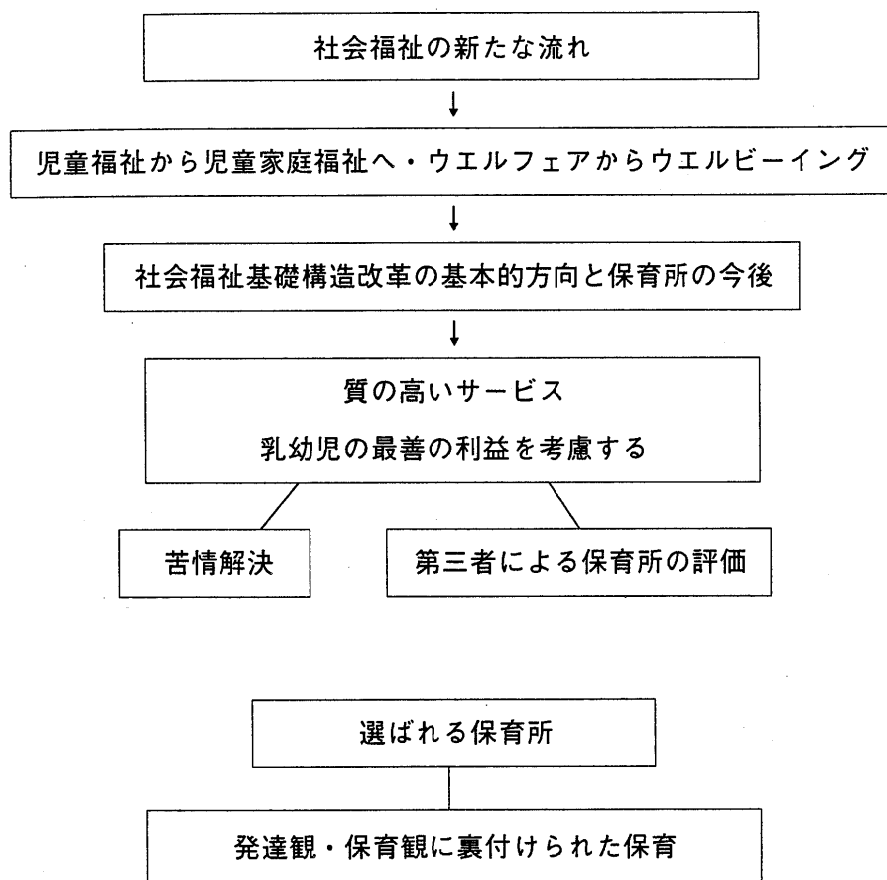
子どもが自発的、意欲的に関われるような環境の構成とは

一人一人の子どもの活動を大切にとは

子ども相互の関係づくりや集団活動を効果あるものにするよう援助とは

ムーブメント教育の基本と共通性

4. これからの保育に求められるもの



おわりに

求められること—子育てという意義ある営みを次の世代へ伝承する

子育ての伝承～子育ては価値あるもの・子育ては楽しい

21世紀を「児童の世紀へ」～エレン・ケイから学ぶ

地域での療育に生かすムーブメント教育

ー 湘南ムーブメント教室での実践 ー

増田まゆみ

1. 親の願いを受け止めて

- ① 子どもも親も心休まる場に
- ② 子ども一人一人がいきいきと活動できる場に
- ③ 兄弟・姉妹も一緒に

2. プログラムの工夫 ～月1回の親子教室という条件の中で

- ① フリームーブメント・グループムーブメント
- ② 動きを中心としたプログラム
- ③ 造形プログラム
- ④ 児童文化を取り入れたプログラム
- ⑤ ダンスを取り入れたプログラム

3. 保育者養成の生きた教育の場として ～教材の開発・作成

4. みんなで創る教室 ～スタッフ・子ども・家族・専門家・地域の協力者

5. ムーブメント教室とコンピュータを用いた教育システムの開発

6. 地域での療育の在り方を考える

《実践報告》

養護学校におけるムーブメント教育

— 「親子で楽しむムーブメント教室」の実践 —

富山県立高志養護学校教諭

富山ムーブメント教育学習会 阿部美穂子

1. ことの始まり

- ・富山の有志が集まった勉強会
- ・実践を共有しよう……親子教室スタート

2. とにかくみんなで楽しもう……第1期親子教室

- ・障害のある子ども、保護者、兄弟、教師、教師の子ども……みんな集まって
- ・最大公約数のプログラムを考え、大規模ムーブメントの実践

3. もっと、一人一人が見える学びをしたい……第2期親子教室

- ・MEPAのデータから、少人数グループを組んで、個に応じたプログラムを
- ・教師と保護者が話し合って実践を積む
- (1) Aグループ(MEPA第3ステージまでの子ども中心)の実践
- (2) Bグループ(MEPA第4・5ステージの子ども中心)の実践
- (3) Cグループ(MEPA第6ステージ以降の子ども中心)の実践

4. まとめ

- ・教師が個に応じたプログラムを実践できるようになるために
実態把握、指導内容、指導の成果を理論に基づいて、分析的に捉えられる力を持つこと
- ・保護者がムーブメント教育を理解・実践できるようになるために
子どものよいところを見つけて積極的に伸ばす視点をもつこと
身近な素材を使った働きかけができること

保育・教育・療養に生かすムーブメント教育の理論と実際②

— 精神運動を中心に —

小林 芳文

ムーブメント教育の中心的な狙いは、

子どもの健康と幸福を支えることにある

1. ムーブメント教育を進める上での環境適応の段階

第一段階：身体意識の形成に関する能力…自分自身に気づく

第二段階：事物との統合に関わる能力…物を操作できるようになる

第三段階：社会意識に関する能力…人との関わりが出来るようになる

2. ムーブメント教育の環境における感覚・知覚・精神機能の関わり

- ① 感覚運動のために…主に身体の揺れ感覚（前庭感覚）、触筋感覚、基礎的な動きの拡大に向けて
- ② 知覚運動のために…主に視知覚、聴知覚、触筋知覚、発展的な動きの拡大に向けて
- ③ 精神運動のために…主に高次認知機能、言語、創造性、問題解決能力の拡大に向けて

3. ムーブメント教育を精神運動のためにどのように進めたらよいか

(1) 高次認知機能について

- ・ 認知とは、ムーブメント教育で認知は高められるか
(累積的経験と共に認知の力は、発達する)

- ・ 高次認知とは
(思考過程、記憶・連合機能、判断など)

- ・ 等級化について(特定の共通した特徴についてグループ化する能力)

- ・ 序列化について(長い順、短い順に並べる論理的操作能力)

(2) 言語について

- ・ 動きの言語

- ・ 理解言語・表出言語

4. 問題解決能力について(思考力の中の発散的思考に比重を置いた能力)

(1) ムーブメント遊具の柔軟な使い方

(2) 子どもを伸ばす教育方法である

5. 創造性、ファンタジーについて

- (1) 感動すること、感じること
- (2) イメージすること
- (3) 音楽と遊具など環境に関わるムーブメント教育のすばらしさ

6. ムーブメント教育の実際について

- ・精神運動の実技を幾つかの遊具を使って進めてみたい

ADHDへの支援に生かすムーブメント教育

－ 教 育 の 現 場 か ら －

国立特殊教育総合研究所
JAMET専門指導員 是枝喜代治

1. 学習障害（LD）と注意欠陥／多動性障害（ADHD）と特別支援教育

2. LDとADHDの関係

- a) LDとADHDの概念の変遷と現状
- b) 3つのLDの捉え方
- c) LDとADHDの相違点と重なり

3. ADHDの特性

罹病等、障害特性等

4. 情緒障害通級指導教室の調査から

5. 通常学級におけるADHD児に対する支援の方向性

6. ADHD児に対する運動的支援の実際 (ムーブメント教育の立場から)

- a) 知覚－運動プログラムで認知発達を促す
- b) 注意力・集中力を高める運動
- c) 集団活動で社会性を育てる
- d) 協応性を高め、動きのぎこちなさを克服する

《実 技》

8 / 5 14 : 30 ~ 16 : 00

ミュージックムーブメントの実際

— 動くこと、感じること、考えること —

東京福祉大学助教授

JAMET専門指導員 飯村 敦子

ムーブメント教育・療法における環境としての音楽

音楽は、私たちの感性に働きかけ心を揺り動かします。ムーブメント教育・療法で音楽は、動きを引き出し、動くことの喜びを高める手段として用いられます。このことから、音楽は、ムーブメント環境における重要な構成要素であるということが出来ます。そこで、ミュージックムーブメントにおいて、音楽をできるだけ柔軟に捉えること、例えば、ムーブメント遊具で作り出す音などを広い意味での音楽として捉える視点が必要です。これにより、ミュージックムーブメントの展開に向けて様々な手がかりを得ることが出来ます。

さて、子どもと音楽との関わりは非常に深く、幼児教育はもとより障害児教育・療育の現場でも、積極的に音楽を取り入れた教育や保育が行われています。大切なことは、音楽や音は子どもの好奇心の的であり、遊びの一部であるということです。子どもは、身のまわりの様々な事物に触ったり、叩いたり、押さえたりすることでどんな音が出るのか、大きい音、小さい音、高い音、低い音、明るい音色、暗い音色など、自ら動くことを通して確認します。つまり子どもは、動きながら、感じながら、考えながら、自分の行為と環境の変化、その因果関係を理解するといえましょう。

そこで本講座では、「動くこと、感じること、考えること」をテーマに、みなさんに参加していただきながらミュージックムーブメントを進めたいと思います。

～*Demonstration*～

- *音楽で挨拶 一動きを引き出すー
- *身体意識と動きの拡大
- *見て、聴いて、即興的な動きを引き出す
- *動きと音楽、コミュニケーション

2001年 セミナー講師・スタッフ

講師

小林 芳文	横浜国立大学教授・協会顧問
増田まゆみ	小田原女子短期大学教授・協会理事
是枝喜代治	国立特殊教育総合研究所主任研究官
飯村 敦子	東京福祉大学社会福祉学部助教授
阿部美穂子	富山県立高志養護学校教諭

スタッフ

協会本部	佐々木正寛			
北陸支部長	竹内 文憲			
司会進行	新保 善正			
係総括	古市 信弘			
受付	吉村喜久子	木村 公江	坂井 浩子	豊岡 澄美
	竹内 友美	丸太 恵理	元田 千枝	
控室接待	山崎 麗子	竹内 麗子	新保 裕子	菅原ひろみ
	立石 寿子	梅木 澄代		
講師係	栃木千鶴美	荻原 慶子	吉田久美子	中野 雅恵
	大和 洋子	片山江美子	北野真知子	森川 愛
	古市まゆ美	安田 鈴子		
書籍等販売	林 みどり	山口 純代	島田裕香子	林 直子
	島倉已知代	津田 理恵		
記録	竹内 誠			
事務局	今井 瑩徳			